

第9回 コラム集「こどもと共に育つ」

コラム集「こどもと共に育つ」も3年目を向かえ第9回目になります。こどものひろばで活動し、現在も子どもに関わっておられる方にそれぞれコラムを書いてもらっています。今号から一部筆者が代わり、小学校教諭、スクールソーシャルワーカー、カウンセラー、介護福祉士、ユースワーカーという様々な立場の5名の方に、日常の出来事や子どもたちを取り巻く環境などそれぞれの目線でコラムを書いてもらっていますので、ぜひご覧ください。バックナンバーはホームページ最下部にある専用ページ（コッペパン コラム集「こどもと共に育つ」）からご覧いただけます。閲覧のためのパスワードは送付文に記載させていただいておりますので、ご確認ください。



つだです。ここ数ヶ月、職員時代の関係者にたくさん会うことができ、色々な想いを書き連ねようかと思いましたが、今回はプライベートな話を。笑

今年、神戸で世界大会が開催されていました。知っていましたか？「KOBE2024 世界パラ陸上競技選手権大会」です。手拍子で一つになる会場。国を背負って懸命に戦う姿。各選手が讃えあう姿。目の前で更新される世界記録。そして、何より驚いたのが観客と選手の距離感。陸上の大会を初めて見たので普通なのかもしれないのですが、金メダルを獲ったばかりの選手がその辺歩いてたり、間には柵があれど「ハイ！」とハイタッチして来たり。アスリートらしいストイックなイメージとは違い、フレンドリーな選手達の姿には国の壁も、障がいの壁も一切感じず、純粋に「カッコいい！」と思いました。かつてのパラリンピアンは「障害者はスポーツをやらなければならない」と言ったそうです。この言葉の意味・意図するところを読みながら、子どもとの関わりに活かしていこうと思いました。



追伸:先日、OBに焼肉奢ってもらいました。とても美味しかったです。まだまだ受付中です。



こんにちは！さとみんです。今年度も引き続きコラムを書かせていただくときになりました。元 Jr.キャンプ、のびのび、ころころにボランティアとして関わらせてもらい、下宿先の瀬田から山科への定期券まで買っていたのに、今は新幹線で京都に降りるだけとなっていますが、どうぞよろしくお願い致します！

現在は6歳男子の母、高齢者のリハビリデイサービスで働いています。朝子どもを保育園に送り、9キロの道のりを電車自転車で爆走し、職場へ。仕事を終えて、また自転車で爆走し、保育園にお迎えに行き、スーパーでお買い得になっているものを狙って買い物をし、夕飯の支度が毎日のルーティン。キッチンにいと、何か手伝うことある？と聞いてくれるので、全部自分でやっちゃう方が早いんだけどなという気持ちをぐっと堪えて、子どもが安全にできそうなことを考えるのは大変ですが、この気持ちを大事に育てていかないといけないなと、何がいか頭をフル回転して、やってもらうことを作っています。

最近は子ども包丁でいろいろ切ってくれたり、洗濯干しを手伝ってくれたり、コップや箸を準備してくれる等、自分で必要なものを考えて動いてくれることも増えてきました。

例え大きさがバラバラでも、子が一生懸命に切ってくれたことが嬉しくて、美味しいねと一緒に食べられることが幸せだなあと思う今日この頃。。



みなさんお久しぶりです。なんだかんだありまして、今年度からまたスクールソーシャルワーカーとして働き始めたたくとです。

今回つらつら綴ろう思うのは、最近あった自分の気づきというか、改めての部分でもあるかもしれないのです



が、「環境設定」と「関係性作り」についてです。つい先日、日々の活動を、普段関わってくれているサポーターと共に、月に一回振り返るという機会があり、そこで、自分の立場や役割的な部分もからかもしれないのですが、「環境設定」にばかり目がいっていたのではないかなと、ハッとさせられました。



これまで、その時その時で感じていることや考えていたことをメモ書きのように綴り、9回のコラムを書いたのですが、なんだかんだで、環境設定の話が多かったように感じます。安全基地やアウトプットできる環境が大切みたいな話は環境面でなにができるかに着目した感覚ですね。子どもたちと出逢いアクションをしていく上で、「環境設定」の話は重要なポイントだと思っています。子どもを変えるのではなく、子どもの周りの環境を変えてメッセージを伝え続けるというのは、いつも意識することですし、サポーターとも共有している部分です。その環境がある上で、その目の前にいるA君とつながり、関係性をつくり、その子の話を聞きながら一緒にどうしていくのか考えていくという「関係性作り」の部分。両方大切。こないだの振り返り会で、自分はそのバランスがだいぶ「環境設定」よりになっているかもしれないなと感じたという話でした。

みなさんはどうですか？どっちに寄っているからいい、悪いという話でもないと思っています。子どもとつながることが得意な人もいれば、俯瞰して環境設定をするのが得意な人もいて、自分はきっと後者なのかなと。得意な人が、得意なところを出し合って埋め合えばいいと思っているタイプですが、子どもとつながるスキルも欲しい！と思ったので関係性づくりの意識を増やそうと思った今日この頃でした。



みなさん、こんにちは。NPO 法人文化学習協同ネットワークで、子ども・若者支援をしています矢盛です。

今は神奈川県相模原市で15歳から49歳の方への就労支援事業（さがみはら若者サポートステーション）や生活保護・生活困窮世帯の子ども・若者の居場所づくり等に取り組んでいます。仕事のことも後々書ければと思いますが、

第1回目ということで自己紹介をさせていただきます。

私自身は、大学3回生の時にこどものひろばに出逢いました。ひろばを一言で表すと、『人生が180度変わったところ！』ひろばに出会うまでは大学でイベントづくりや経営を学んでいましたが、友達から「ひろば絶対合うしおもしろいから」と口説かれて、気付いたらのびのび・こどもフェスタ・インターン企画などに携わらせてもらい、色んな刺激が楽しくてほぼ毎日ひろばに通っていました。



今の仕事に就いたきっかけもひろばの影響です。のびのびや貧困対策事業で子どもたちと接している内に、ひろばと出会う人や社会への信頼関係を取り戻す子どもたちがいる一方で、どこにもつながらずに引きこもりや不登校になって孤立する子どもたちってどうなっていくんだろう…と、若者支援に興味を持ち、京都市ユースサービス協会に就職し、児童養護施設の職員を経て、今の仕事の若者支援に就いています。

次回からは、こども・若者たちと関わる中で、私自身が大切にしている『地域とともにつくる若者が孤立しないまちづくり』などや、日々の葛藤や想いなども書けたらと思っています。

期待せずに次回お待ちくださいませ。



ぴーちゃんです。最近印象に残った話を書きます。

先日、重度の障害を持つ方の保護者と面談をしました。その時に保護者の方が、「支援は、支援が必要なその子のためだけでなく、1番近くで介助する家族の意見も取り入れられることも大切だと思う」と、お話してくださいました。「その子だけが快適になるのではなく、支える家族も同じくらい幸せになれるのが理想なのではないか。誰かだけがすごく楽になって、誰かが大きな負担や苦しみを味わうのは家族として上手くやっていけないと感じる」と、続けて思いを語ってくださいました。

その保護者の方は子どもを一人の人間として尊重していると感じました。そして正直、この保護者の話がとても刺さりました。支援の難しさを肌で感じたというか、直面させられたというか。メインの対象者だけでなく、その対象者を取り巻く家族や関係者に対する支援も含めて、どのような支援が良いか考える重要さを改めて意識するきっかけになりました。

